

No.94 木造地藏菩薩坐像 台座光背 修理設計書

一般社団法人三乗堂

1. 概要

名称 木造 地藏菩薩坐像 台座光背

指定文化財の種別 南足柄市指定

員数 一組

所有者 神奈川県南足柄市弘西寺 131 弘濟寺

所在地 同上

修理者 一般社団法人三乗堂

施工予定場所 栃木県小山市駅東通り 3-24-9 小山工房

施工時期 2023年1月23日の法要までに本堂に安置する。

その他 本体のみ博物館へ展示貸し出し歴あり。

- 法量(工房移動後)

台座高(地付～蓮肉上部)：約76cm 台座幅(下框)：約96cm 台座奥(下框)：約80cm

光背高：約122cm(柄を含む) 光背幅：約87cm 光背奥：約24cm

- 形状

〈台座〉

蓮華座、敷茄子、蕊(上の段)、受座、蕊(下の段)、反花、上框、下框からなる。

蓮華座は、九方六段の魚鱗葺き。蓮弁は筋彫り。

〈光背〉

光身は二重円光、光縁は雲形の舟形光背。

2. 保存状態・損傷状態

本堂から搬出したことにより、調査時には把握できなかった損傷が明らかとなった。

(詳しくは別紙「修理設計書-参考資料」を参照)

【台座】

脱落： 蓮弁

(背面-左)4段目-左から1番目…脱落蓮弁④に当たるか。

(背面-右)4段目-左から7番目…脱落蓮弁⑧に当たるか。

(背面-左)5段目-左から1番目…脱落蓮弁⑤に当たるか。

(背面-左)6段目-左から1番目…脱落蓮弁③に当たるか。

敷茄子

三角材(補強材か)4個ある内の3個が敷茄子内に脱落。

欠失： 蓮弁

(右側)1段目-左から7番目左右一部(鼠害)、8番目右(鼠害)

(右側)2段目-左から6番目右、8番目先端(鼠害)

(正面)4段目-左から3番目先端…脱落蓮弁⑦と⑨に当たるか。

(右側)4段目-左から8番目先端

(背面-左)6段目-左から1番目根本のみ残る…脱落蓮弁③に当たるか。

(左側)6段目-左から2番目根本のみ残る…脱落蓮弁①に当たるか。

(正面)6段目-左から5番目根本のみ残る…脱落蓮弁⑥に当たるか。

(背面-右)6段目-左から7番目根本のみ残る…脱落蓮弁②に当たるか。

下框

(正面)一部欠失。

亡失： 蓮弁

(背面-左)6段目-左から1番目

(背面-右)6段目-左から9番目

蕊

(背面-右)部材。

下框

(背面)薄板。

汚れ・剥落： 全体に煤や埃が堆積する。敷茄子・上框・下框表面の茶色い薄い塗膜層が剥落。

蓮弁と蓮弁の間に紙片・木の葉・古銭などがたまる。

後補・修理痕： 蓮肉と敷茄子の間に竹材を挟む。芯棒上部にエアパッキンを巻く。背面の薄板。

敷茄子・蕊・上框・下框表面に塗布されている茶色い薄い塗膜層。

蓮弁に金箔の変色が見られる。(近世の塗料か)

その他： 蓮肉部・蓮弁・受座・蕊の組付けの緩み亀裂が生じている箇所もある。芯棒のぐら

つき。鉄釘に錆が生じている。

鼠と思われる巣が下框と蓮肉部内にあり、穀物・紙片・木の葉・鼠の糞がたまる。

【光背】

脱落： なし。

欠失： 右3箇所。左2箇所

亡失： なし。

汚れ・剥落： 全体に煤や埃が堆積する。

後補・修理痕： 金箔に変色が見られる。(近世の塗料か)

その他： 安置時、柄が緩いためか壁に寄りかかっている。

光脚の彫刻部分が外れかかっている。

周縁部上部と左、二重円光背部の八葉、背面側の二重円光下部に亀裂が生じている。

3. 修理方針

〈基本方針〉 今までお渡しした見積書、修理設計書にも記載している内容

- ①クリーニング : 刷毛による乾式クリーニングと精製水とエタノール(1:1)の湿式クリーニングで全体に堆積した煤や埃を除去する。
- ②全解体 : 解体しながら錆びた鉄釘や竹釘を撤去する。
- ③剥落止め : 剥落している箇所はセルロース3~5%で剥落止めを行う。
止まらない場合はプライマルACを使用する。
- ④含浸強化 : 虫損で脆弱した箇所はセルロース3%で含浸を行う。
- ⑤虫穴埋め : 虫穴が著しくスポンジ状になっている箇所は含浸強化後、ブチラール・砥の粉・マイクロバルーン・ブタノールによる充填剤を虫穴に注入する。
- ⑥補作 : 欠失箇所・亡失箇所の復元、鉄釘撤去後の穴埋め、組付けの際の調整材、補強材をヒノキ材で制作する。
- ⑦組み付け : 解体したすべてのパーツ、新しく作った箇所は膠を用いて再接着し、組み上げる。
- ⑧木屎漆 : 新補部分の境界や小さな欠失箇所を木屎漆で整形する。
- ⑨錆下地 : オリジナル箇所が錆下地と想定されるので、新補箇所はすべて錆下地を施す。
- ⑩呂色 : 錆下地後、呂色漆を塗る。
- ⑪箔押し : 呂色下地後、金箔3号を漆で押す(漆箔)。
- ⑫補彩・古色 : 新補箇所や修理箇所を周りに馴染むようにアクリル絵の具や顔彩を用いて古色する。

4. 要確認事項

※内容をご確認の上、ご回答お願い申し上げます。(詳しくは別紙「修理設計書-参考資料」を参照)

Q1, 湿式クリーニング： 光背や蓮弁の金箔が変色している箇所は、上から塗料が塗られており、湿式クリーニングを行うと塗料が取れてしまうことがわかった。(箔下の呂色下地が露出する)

修理方法 ➡A: 下地が露出しないように金箔箇所の湿式クリーニングは行わず、乾式クリーニングのみ行う。※仕上がりは現状を維持。

➡B: 今後も変色が進むことを考慮し、湿式クリーニングを徹底して行い、下地が露出した箇所は、漆箔を施し、周囲の色味に合わせて古色を行う。

※仕上がりは、現状に近づける。

Q2, 湿式クリーニング： 敷茄子・上框・下框の表面の上の薄茶色の塗膜層(後補)は取れてしまうことがわかった。

修理方法 ➡A: 後補層ではあるが、剥落止めを行う。

➡B: 湿式クリーニングで剥落している後補層はすべて除去する。

クリーニングを行うと元々の呂色仕上げが露出する。

Q3, 補作： 亡失したと思われていた蓮弁は、別保管されていた脱落蓮弁で復元が可能なことがわかった。

修理方法 ➡脱落蓮弁を再利用し、6段目が7枚しかないため、2枚補作する(左から1番目と9番目)※現存の蓮弁枚数は52枚

Q4, 補作： 下框の底面に底板があるが役割を果たしていない。

修理方法 ➡A: 撤去し、底面は補作しない。

➡B: 撤去し、底面をヒノキ材で補作する。

Q5, 補作： 背面の板材は形、用途を適していない。

修理方法 ➡内部の構造材を加味しながら、背面材の構造を考え補作し、周囲に合わせて呂色風仕上げ(胡粉下地に生漆による簡易的なもの、または、アクリル仕上げか)を行うで問題ないか。

Q6, 組み付け： 現状は竹釘によって蓮弁を葺いている。

修理方法 ➡修理後の蓮弁の葺き直しの際は、竹釘ではなく真鍮釘でも問題ないか。

(釘頭がある方が安定した固定に適しているため)

Q7, 修理銘札： 台座光背にそれぞれ修理銘札を準備する予定。

- ➡台座:新補する背面材に直接書くか、修理銘札の板を準備し取り付けるか?
- ➡光背:修理銘札を取り付けられる場所が見当たらないが、背面に設けるか?

Q8, 錆下地 : 新補材はオリジナルに合わせて錆下地を施すが、オリジナルを含む境界部分なども同様の処置で良いか。(可逆性の問題)

以上。